

## 入学式 「式 辞」

日本人古来の季節感を追い抜くように、早くも新緑が輝き始めています。

新鮮なみどり児の誕生に沸き立つ自然も、本日の晴れの日を祝福してくれています。

370名の新入生の皆さん、聖カタリナ学園高等学校への入学、おめでとう。

男女共学の新しい高校になって3年目、全学年揃って新体制でスタートする、まさに本校再生の元年とも言うべきこの年に皆さんを迎えることができましたことは、本校にとってこの上ない喜びであります。

私たち一同、皆さんを心から歓迎いたします。

本校は、キリスト教精神に基づいて、社会に役立つ人間を育成する、1925年創立の伝統ある学校ですが、時代の変化に即応して、3つの科、多くのコース・系列を設け、ICT教育に先進的に取り組み、聖カタリナ大学との連携を強めて行こうとしている、未来に開かれた学校でもあります。勉強に、実習に、スポーツに、青春の情熱の丈を傾けて、皆さん一人ひとりの将来設計を確かなものにされていくことを期待します。

保護者の皆さま、お子さまのご入学、おめでとうございます。

心からのお喜びを申しあげますとともに、本校をお選びくださったご賢察に深い感謝の念を捧げさせていただきます。

皆様の長年のご薫陶が本日ここに実を結びました。

さらに大きく報われる日のために、今日からの3年間、お子さまを変わらぬ愛情で包んでいただきたく存じます。

ご来賓の皆さま、本日はわざわざのご来駕・ご臨席を賜り、誠にありがとうございました。

皆さまの温かいご理解を力に、私たちは厳しい自己点検を怠らず、生徒と保護者の全幅の信頼を得られますよう、たゆまぬ精進に努めてまいります。

どうぞ旧に倍するご支援をお願い申し上げます。

今日、新入生の皆さんに伝えたいことが2点あります。

皆さんもご存知の、松山ゆかりの夏目漱石の「坊っちゃん」を例にして話させていただきます。

「坊っちゃん」という作品は、普通には坊っちゃんとマドンナの話と思われております。

読んでみますと、坊っちゃんとマドンナは一度も対面していないことが分ります。マドンナは坊っちゃんを知らなかったかもしれないのです。

もっと細かい疑問とそれに伴う発見も次々に出てまいります。

作品は「親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしている」という文で始まるのですが、始まって直ぐの所に、坊っちゃんの家の中に「栗の木が一本立って」て、坊っちゃんには「命より大事な栗だ」とあります。

初めは何とも思わずに読み過ぎてしまうのですが、終わりの方で、四国辺の田舎（松山とは書いてありません）で教師になった坊っちゃんが下宿先の庭にある「只一本の蜜柑」の木を見て、「あの青い実が段々熟してきて、黄色になるんだろうが、定めて綺麗だろう」と思う、という所を読んだ時、読み始めには何とも思わなかった「一本の栗の木」に意味のあったことが分ってきます。

栗の実のいがのように周囲に突き刺さってばかりいた、無鉄砲な坊っちゃんが、大人になって、蜜柑の実のような丸みに惹かれていくのだけれども、まだ黄色に成熟するまでには至らない青い未熟

な段階だった、ということなのでしょう。

その時はよく分らなかったことでも、後で読み直し学び直すことによって、「こうなのかな」とか「ああ、そうだったのか」とか、気づくことができるようになります。

中学までに分らなかったことでも、本校で学び直すことで分ってくるものがたくさんあると思います。

勉強に限らず、実習でも、スポーツでも「そうだったのか。こう考えて、こうすればよかったのだな」と分ってくると、楽しくなって、次の勉強・次の目標へと自然に気持ちが向かうようになります。

「分ること・分るまで学ぶこと」が何よりも楽しいことだと思える高校生になってください。これが今日伝えたいことの1点目です。

次に、「坊っちゃん」という作品が坊っちゃんとマドンナの話でないのなら、どんな話なのでしょう。

坊っちゃんと坊っちゃんの家で働いていた清というお婆さんの話なのです。

清は、嘘が大嫌いな坊っちゃんを「まっすぐないい性格」だとほめて、坊っちゃんのために尽くします。坊っちゃんは、清を、「ほめられるおれよりも、ほめる本人の方が立派な人間だ」と分って、次第に大切に思うようになります。

清は坊っちゃんに無償の愛情を注ぎ、坊っちゃんは清の愛に報いようとして清の最期の願いを叶えてやります。

つまり「坊っちゃん」は、本校の校訓である「誠実・高潔・奉仕」に通じる一面を持つ作品なのです。

読書に限らず、生活のいろいろの場面で、本校の校訓を思い起こす習慣をつけてください。

お祈りと讃美歌で始まる落ち着いた毎日の生活を通して、校訓の示す清らかな人格の高校生になってください。

これが今日伝えたいことの2点目です。

保護者の皆さま、私たちは、お子さまの一人ひとりが、今まで以上の知的な喜びと精神の崇高さに出会い、幸せな将来を現実のものにできるよう、誠意を持って職責を全うしてまいります。

皆様におかれましても、お子さまたちがお互いによき隣人になれるような、教育環境作りにご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

年明けからの厳しい寒さに耐えているうちに、自然は輝くばかりの新緑を恵んでくれるようになりました。

本校も「伸びる・変わる」の2年を経て「輝く」3年目を迎えます。

折りしも、硬式野球部の諸君が力強く門出を飾ってくれました。

新入生の皆さん、一緒に堂々と胸を張って、100周年への大道を進んで行きましょう。

皆さんの健康と活躍を祈って、式辞といたします。

平成30年4月9日

聖カタリナ学園高等学校

校長 渥見 秀夫